

学校づくりを担う事務職員のあり方

～渡島第3ブロックの活動から～

七飯町立軍川小学校
小辻 和也

1. はじめに

渡島支部（渡島公立小中学校事務職員協議会）は、函館市を除く管内10市町で構成されており、10市町を4つのブロックに分け、支部内共通の研究の視点「学校づくり（領域の一般化を目指しながら）」を念頭におき、研究活動をすすめています。

渡島支部の研究の視点である「学校づくり」という言葉には、子どもの生活の場としての学校の環境を整えていくということはもちろん、そのことをすすめていくために必要な教職員間の協力協働の体制をつくっていく、という意味も含まれます。

また、「領域の一般化」という言葉には、学校づくりに向けた具体的な実践を「事務職員なら誰もがやっている」という状況をつくりあげ、さらに、学校事務職員の存在やとりくみについて学校内外からの一般的な認知を得ていくこと目指す、という意味が込められています。

今研究大会では、七飯町・鹿部町・森町の3町で構成する第3ブロックにおける研究活動の経過を報告します。

2. 第3ブロックの研究活動の概要

第3ブロックでは、2013（平成25）年度から2015（平成27）年度までの3年間の研究テーマを「学校づくりを担う今後の学校事務職員のあり方について」とし、ブロック内で行う内容として大きく次の2つの課題を設定しました。

- ① 各校単位・各町単位での具体的な実践や課題の交流→「何を行っているのか？」
- ② 学校事務職員をとりまく今日的な状況の把握と分析→「何が求められてきているのか？」

また、これら2つの活動を通して得られる成

果として次のような仮説を立てました。

- ◆ ①の活動を通し、学校づくりにむけた具体的な実践の見直しや広がり、新たな課題の掘り起こしなどにつながるのではないかと。
- ◆ ②の活動を通し、学校づくりを担う職としての学校事務職員の職務のあり方や今後のとりくみの方向性などについて考えることにつながるのではないかと。
- ◆ ①②の活動を通して共有した実践や押さえをもとに、各町・各校の実践を見直しを加えながらすすめることにより、学校づくりを担う職としての事務職員の役割について、学校内外から認知を得ることにつながるのではないかと。

ブロックとしての研究推進は、授業期間中の全体研修会（年4回、半日日程）と夏季休業中と冬季休業中の研修会（年2回、1日日程）の計6回を設定し、研究テーマにもとづく実践交流や話し合いは夏季・冬季の研修会の中で重点的に行ってまいりました。

3. 「① 何を行っているのか？」

（1）課題設定の理由

先に述べたとおり、第3ブロックでは研究活動の柱の一つとして「各校単位・各町単位での具体的な実践や課題の交流」を位置づけました。

第3ブロックでは2012（平成24）年度まで「各町での学校間連携のとりくみの定着」を研究・実践テーマとし、その中でも各町の連携で行うことの一つに「学校単位での実践を交流し、共通してとりくめる内容は各校の実践に取り入れ、全町的なとりくみに広げていく」を位置づけていました。

このことにより、学校事務運営計画（二本建て提案）・学校財政財務（学校予算に関わる校内提案）・事務だより（教職員向け・子ども保護者向け）・保護者負担軽減（公費化内容の一部共通化）などについて、各町単位で一定の広がりを見てきましたが、これらに関するブロックでの交流や論議は、3町で集まる回数や時間が限られる中、十分に行えてはいませんでした。

また、ここ数年の人事異動に伴う構成メン

バーの入れ替わりや、ブロック内で若年層や期限付採用者が増えてきたこともあり、これまで積み重ねてきた実践を継承しさらに発展させていくためにも、日常的な校内実践の交流については、各町の研修や連携の中ではもちろん、ブロックとしても密に行っていくことが必要と考えました。

(2) 活動内容

実践交流は、長期休業中に行っているブロック研修会の中で重点的に行ってきました。

交流する内容は、各町単位の学校間連携のとりくみ状況や各校単位の学校財政財務にかかわる具体的実践のほか、個々の事務職員が校内で課題と感じたことやその解決に向けて具体的にとりくんだこと全般についてとしました。

交流方法は、共通様式として作成した「実践交流シート」や職員会議提案資料などを各自持ち寄り、それらをもとに一人ひとりが説明し交流していく形ですすめました。

このような形で実践交流を行うようになったのは、2012年度の渡島春季研究会において、講師として招いた全道協議会常陸会長から

「学校事務職員の弱点克服の手立て」として提言された、「①他者の生のとりくみを交流することが必要」「②実践交流はダイジェスト版ではなく職員会議等に提案したそのものをみんなで見合うことが必要」という内容に示唆を受けたことによります。

(3) 交流された具体的な実践内容

ブロック研修会において実践交流を継続する中で、この間、各町・各校から持ち寄せられた実践は主に次のような内容です。

① 学校間連携によるとりくみ

〈七飯町〉

「七飯町学校事務連携会議」における現在のとりくみ状況について（高額事務機器や児童生徒用机椅子の年次更新、その他）

〈鹿部町〉

町内小中各1校のため日常的な連絡調整を基本とした連携や、教育委員会職員を含む町研サークルの活動が行われていることなどに

ついて

〈森町〉

町事務サークルとして行っている教職員向け全町版事務だよりのとりくみや、町協議会として行っている保護者負担実態調査・教育委員会との意見交換会のとりくみについて

② 各校における財政財務活動

- ・各校の校内配分予算について
- ・校内配分予算の項目の工夫
- ・校内配分予算案の提案や説明における工夫
- ・保護者負担の軽減にむけた校内予算提案
- ・その他

③ 校内課題等の解決にむけた各種とりくみ

〈保護者負担軽減を念頭においた内容〉

- ・PTA会費等の見直し
- ・その他

〈情報発信、他職員・他分掌との連携など〉

- ・納入備品の紹介（校内展示）
- ・事務機器・消耗品などの使用方法について
- ・省エネ・節電、ゴミ分別などについて
- ・備品点検のとりくみ
- ・物品庫、教材室、特別教室などの整理
- ・文書・図書の整理・廃棄
- ・会議提案方法の改善等にむけた他との連携
- ・子どもの安全確保にかかわる他との連携
- ・その他

〈事務改善、時間を生み出すための工夫〉

- ・備品台帳の電子化
- ・予算経理処理の効率化
- ・その他

各校から持ち寄せられた実践の内容は上記のとおり多岐にわたりますが、そのほとんどに共通していたのは、事務職員の個業の処理としてではなく、校内における事務職員からの提案・問題提起・情報発信などを起点に、他の教職員との話し合いを経て、連携や協業を伴う校内組織全体のとりくみとしてすすめられていること（或いは意識されていること）でした。

先に述べたとおり、「学校づくり」という言葉の中には「協力協働を基本としたとりくみの推進」ということが含まれていると考え

ていますが、こうした観点がブロック内の事務職員一人ひとりに意識され、具体的な実践に反映されていることがわかりました。

4. 「② 何が求められてきているのか？」

(1) 課題設定の理由

北海道の学校事務職員をとりまく状況については、ここ数年、様々な動きが見られます。

例えば、①具体的な業務内容例を伴う事務職員加配(新たなミッション、専門人材など)の実施、②道教委主催の事務職員研修や新採用者研修の内容面の変化(道費事務の説明中心から学校職員としての心構えや期待するとりくみ・学校組織マネジメントなどの内容重視へ)などです。

こうした教育行政主導による近年の動きは、校内における学校事務職員のスタンスや、他の教職員との関係性、仕事のすすめかたなどに少なからず影響を及ぼすことも考えられるものです。

こうしたことから第3ブロックでは、今後の学校事務職員の職務や実践のありかたを考えていく上で、私たちをとりまく今日的な状況について理解を深めることが必要と考え、このことを研究活動の柱の一つに位置づけました。

(2) 活動内容

ブロック研修会では、①「学校事務」誌の2013(平成25)年1~2月号に掲載された当時の道教委義務教育課長の寄稿「学校事務職員に対する期待<1><2>」に示されている内容について(2013夏季)、②事務職員加配の申請等にかかわり道教委から示されている

「業務内容一覧」について(2014冬季)、③「学校組織マネジメント指導者養成研修」参加者からの報告(2014冬季)、④「新採用事務職員研修会」や「新たなミッションを担う事務職員研究協議会」各参加者からの報告

(2015夏季)などをもとに、現在、教育行政の立場や視点から、学校事務職員は現在どのような職だと捉えられ・どのような役割を求められてきているのか、について意見交流を行ってきました。

また、現在私たちが校内でどのような業務

を、事務職員として・または分掌や係担当者として担当しているのかについてのブロック内アンケート調査を行いました。

調査の内容は、前述した事務職員加配の「業務内容一覧」に示されている各項目について、①校内における関わり方の度合い(現在の状況)、②事務職員が中心になって行った方が良いと思う度合い(今後の事務職員のあり方として)を回答してもらい形とし、その他、子どもとの直接的なかかわりを伴う業務や校内組織上特に明記されていないが慣例的に事務職員が行うものとして固定化している内容などについての設問を加えました。アンケート調査は2014年夏に行い翌年1月の冬季研修会の中で結果をもとに実態交流と意見交流を行いました。

(3) 交流された内容

①ブロック内での交流

これまでのブロック内での話し合いでは、事務職員加配の業務内容一覧についてはその内容や区分について、学校組織マネジメントについては、その中で事務職員が果たす役割として具体的に何が期待されているのかなど、様々な疑問が出されていました。また、こうした昨今の動きに共通していることとして、教員の負担軽減のために事務職員を活用しようという考えがあるのではないか、ということや、そのことに対する懸念も出されていました。

校内担当業務に関するアンケート調査結果をもとにした話し合いでは、校内における担当業務の現状についての実態交流を中心に、今後のあり方として事務職員として各項目への関わりはどうあるべきかなどについて個々の考えを交流しました。

②管内事務研での交流

第3ブロックの活動や話し合いの経過については、渡島秋季研究大会において毎年レポート報告を行ってきました(注:渡島支部では毎年秋季研究会ですべてのブロックが問題提起を行っています)が、他のブロックの会員からもブロック研修の中で交流された内容と同様の意見が多く出されていました。

また、事務職員の校内におけるスタンスや学校内外でどのように捉えられているかということについては、ベテラン事務職員から「私たちの考えやとりくみとは裏腹に、未だ縁の下力持ちや教員の下請けなどといった捉えかたがされているのではないかと。こうした捉えかたがされたままでは、学校づくりに主体的にかかわっていくことは難しいのではないかと。」との指摘もされていました。

5. まとめにかえて（今後の研究の方向性も含めて）

実践交流、実態交流、意見交流を中心とした第3ブロックの研究活動の概要について述べてきました。「今後の事務職員のあり方」という大きなテーマを掲げたものの、実際の活動は手探りですすめられ、仮説として設定した具体的な成果に近づくことができないまま3年間が経過してしまいました。

そうした中であってもこの間の話し合いの継続の中で、未整理ではありますが様々なことが見えてきました。

<① 何を行っているのか>

- 各事務職員の担当業務については、私たち自身が職務（本務）とおさえる学校財政財務と教育情報の他、校種や規模などにより様々である。
- 各校においては「二本建て運営計画」における本務領域と校務分掌を整理する観点で仕事の振り分けがなされている。
- 事務職員として主体的に担っている業務は、実際にはそれほど多くない。
- こうした中であっても個々の事務職員においては、学校づくりの観点が意識され、情報発信や提案、他との連携や協力協働による各種とりくみが実践されている。

<② 何が求められてきているのか>

- 学校事務職員については未だ補助的な職種として捉えられていると思われる。
- 教育行政などの視点から、学校運営における事務職員の役割が注目されてきている。
- ただし、期待されている役割は、主体的発想や企画を伴うものではなく管理職や教員

の補佐的な役割だと思われる。

- こうした流れの中で、私たちの考えやとりくみの現状とは別に具体的な仕事内容が規定されつつあるのではないかと。

学校事務をとりまく状況や、これまで積み重ねてきた北海道の学校事務の実践を踏まえ、今後、私たちに必要なことはどのようなことでしょうか。それはやはり、受身的・定型的・補助的な仕事に甘んじることなく、学校内に存在する課題の解決にむけて、どんなことでも積極的・主体的に提案や情報発信を行い、学校づくりの一翼を担う職として事務職員のスタンスを確立していくことではないかと考えます。

また、とりくみをすすめていく上で、学校財政財務・教育情報を切り口に、「+αの部分」として、個々の得意分野を仕事の中で生かしていくことも大切ではないかと考えます。

「属人的」「あの人だからできる」と括られることもあります。学校づくりに還元できる有益な特技や個性、情報を持っているのであれば、積極的に活用していくべきと考えますし、また、実践やその成果を、校内だけでなく他の事務職員に還流することでさらなる広がりも期待できます。

こうしたことは、今日的な状況を考えたとき、これまで以上に意識していく必要があるのではないのでしょうか。

これからも私たちは、子どもの生活の場としての学校づくり、協力協働の体制づくりにむけて、学校財政財務・教育情報の活動を基本とし、その活動を狭く捉えず、ほんの小さなとりくみであっても「事務職員からの発信」を意識し、日々の実践を積み上げていきたいと考えています。

皆さんの忌憚のないご意見をいただき、今後の活動の生かすことができれば幸いです。

※ブロックで作成した「実践交流シート」「仕事内容アンケート調査」は、石狩市の学校間連携会議でとりくんだものを（当時の事務局に承諾を得て）参考にさせていただきました。